

山形県民教連通信

<http://www.asahi-net.or.jp/~gy6e-kjm/>

2020.12.28 No.70

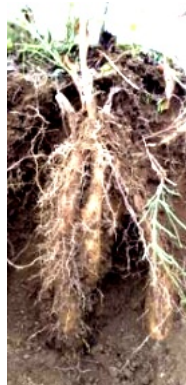
Contents

巻頭言「対話・会話、コミュニケーションを大切に！」	... 1
特集 <少人数学級の実現を！> 県民運動の取り組み	... 3
少人数学級がいい！	... 5
学校の役割って何だろう	... 6
県民教連冬の学習会Online講演概要	... 7
学習指導要領の問題点	... 9
学会議会員任命拒否問題抗議文	...10
本の紹介「今日から始める楽しい授業づくり」	...12

山形県民間教育研究団体連絡協議会 通信
 <発行人> 山形県民教連事務局
 〒990-0044 山形市木の実町12-37
 県教組山形地区支部内
 TEL/FAX 023-631-2112/2126
 E-mail yamagata@yamagata-kenkyousei.gr.jp
 <編集人> 鬼島 悦雄 kijima@e.email.ne.jp

巻頭言

対話・会話、 コミュニケーションを 大切に！



山形県民教連会長

設楽 隆雄

野菜作りをしていると、隣の人に「自然薯もっていけ。春にこうやって植えるといいんだ。」などと声をかけられます。私も「玉ねぎの追肥はどうするんですか？」などと聞いたりします。そういうことを繰り返していると、気持ちが通じ合っているようで、お互いが会うと自然にあいさつするようになりました。おしゃべりや対話は、気持ちを近づける力があるんだなあと思いました。

菅政権は「主権者」である私たちと対話しているのだろうか。守ってくれるだろうか。

菅政権の支持率が下がってきました。不支持が逆転しているというデータもあります。当然です。官房長官だった安倍政権の時の「モリ・カケ・桜の事件」などでは、国民は真相を知りたいと思いました。しかし、「真摯に、丁寧に説明する。」と何度も言いながら実際は行いませんでした。私たちとの対話は成立しませんでした。そして、公文書も容易に改ざんされるようになってしまいました。

菅官房長官が首相になり、さらに私たちとの対話の実現しなくなりました。

コロナ禍で、国民は、検査体制の充実と給付金などの「公助」を求めているのに対して、「マスク会食」などの「自助」を叫びました。そして、医療体制の充実を進めずにGoToキャンペーンなどの不公平な政策を続けているのです。

日本学会員任命拒否問題では、憲法に保障されている「学問の自由」「表現の自由」などを侵す発言をし、国民が任命拒否の説明を求めても応じず、組織の問題にすり変えています。また、拒否した理由を明確にしないことで、研究者たちの不安を煽り、権力者にモノを言えない雰囲気をつくっています。

山形県民教連冬の学習会2021 OnLine講演会

2021年1月9日(土) 講演 14:00 ~ 15:30

<演題> 新型コロナ・ポストコロナ時代の教育改革

「一人ひとりの学びの権利の保障と公正な教育の実現へ」



<講師> 佐藤 学 さん(学習院大学教授 東京大学名誉教授)

<会場> 自宅PC or 山形ビッグウイング401会議室

(県民教連総会 15:40 ~ 16:40)



ドイツのメルケル首相は、国民にコロナ感染が拡大したことを謝罪し、命の大切さを語りながら、クリスマス前の時期の小売店の営業禁止や公共の場での飲酒の禁止などの制限を必死に訴えました。そして、その思いは国民に伝わりました。対話が成立しているからです。

安倍・菅政権は、「道徳」を教科化し、教職員に「子どもたちに道徳心を培え」と言いながら、自分たちが道徳に反することを、国会や政治の場で平気で行っています。

国民と政権の間に対話が成立しなくなりました。モラル破壊も進んでいます。私たちは、「民主主義」「憲法」を守るたたかいをさらに強化していかなければなりません。

* 山形県民教連として「日本学術会議会員任命拒否問題」に対しての抗議文を、「未来を生きる子どもたちへの教育上、重大な問題がある。」という観点で作成し12/7に投函しました。

(本号10ページに掲載されておりますのでご覧ください。)

権力者に抗議できることが民主主義の根幹の一つだと思いました。

学校に対話があるか。「ハイパー教化」が進む学校

子どもたちは、実態を考えずに進む授業や、自分たちの声や要求に耳を傾けてくれない学校に「楽しくない」と思っているのではないのでしょうか。また、「終わりの見えないコロナとのたたかい」で疲弊しています。子どもたちとの対話が必要です。

学校は相変わらずブラックな職場です。

そして、「ハイパー教化」が進んでいます。これは、「水平画一化」ということです。「こうであれ」「こうでなければ許さない」と求める圧力のことです。例えとして、戦前の教育勅語などがあげられます。

この「ハイパー教化」は2006年の教育基本法改定によりさらに強化されました。教育内容や方法、教科以外のすべてを動員して「望ましい人間像」を押し付けるものです。たとえば、「特別の教科道徳」「スタンダード」「ブラック校則」などに表されるように、髪の毛の色などを定め押し付けることもあります。

これまでの学習指導要領は「何を学ぶか」を規定するものでしたが、新学習指導要領は「何を学

ぶか」と「どのように学ぶか」のほかに「何ができるようになるか」まで規定しています。そして、そのための資質(態度)まで押し付けています。

そこには教師の自主性や創造性を発揮する場は無くなります。子どもの個性や願いを大切にする教育では無くなります。

教師が教師としての仕事ができる環境をつくること、子どもたちとの対話を大切にして、個性や願いを大切に学校を創っていかなければなりません。

♥うれしいこと「35人学級」が実現！この運動をさらに進め「20人学級」をめざしましょう。

全国の子ども、父母、教職員、PTAなどの少人数学級を望む声におされ、政府はようやく12月16日に「小学校の35人以下学級化」を決定しました。40年ぶりの改正です。来年度から令和7年度までの5年間かけて行います。

しかし、課題はたくさん残ります。

この恩恵を受けるのは、全国の学級の1割弱の学級です。それは、山形県のように「さんさんプラン」などによって少人数学級がすでにおこなわれている自治体があるからです。また、中学校が外された、という課題もあります。

私たちは現在一番指導が困難である「多人数単学級」を解消するために「さんさんプラン」の下限21人要件を撤廃し、適用を全学年に広げることがを要求しています。

OECD諸国の1学級当たりの平均児童生徒数は、初等では21.9人、前期中等では23.6人です。さらに運動を進め「20人以下学級」を求めていきましょう。

同時に、教職員の待遇改善をはかり、教職をめざす人が増えるようにしていく必要があります。

今がチャンスです。いろいろな組織を通じて署名用紙が届いていると思います。(届いていない方は連絡をください。)家族はもちろん、同僚、友人、知人と対話を重ね、署名していただき大きなうねりをつくっていきましょう。



<特集>

少人数学級の実現を!

子ども一人一人を大切に 少人数学級の実現を!

～ 少人数学級実現県民運動の取り組み ～

「少人数学級をすすめる県民の会」
事務局長 堀野 広一

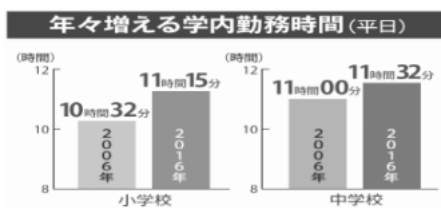
はじめに

本来の学校の先生は、さまざまな個性をもった子どもたちの成長を支える魅力ある仕事です。自分が関わった子どもが変わっていく姿を語る教師たちの表情は、いつも生き生きとしています。ところが、過酷な勤務や過重過密な学習内容、学力テストでの点数競争や授業のやり方の画一化など、学校現場を締め付ける政策が、教師という仕事の魅力を奪っています。

忙しさの中でやりがいや自信を失う先生

教職員の長時間労働が社会問題になって久しくなります。改善どころか深刻さを増しています。小中学校の教師の7割が過労死ラインを超えて働いています。夜の8時、9時まで職員室は煌々と明かりが付き、

土・日にも学校が開いているのが当たり前になっていきます。



問題は単に忙しいということではありません。組合のアンケートによれば、「自分は先生に向いていない」と答える教師は3割を数え、「長く続ける自信がない」と5割の教師が答えています。ストレスの原因の第3位が、なんと「授業準備」です。一番充実させなければならない授業や

組合のアンケート(2019年10月 東置教組)
「自分は先生に向いていない」約3割
「長く続ける自信がない」約5割
ストレスの原因 第1位「保護者・PTA対応」
第2位「事務報告書作成」
第3位「授業準備」
第4位「過密な学習内容」

授業準備が、教師の負担になり、ストレスの原因になっているのです。

不登校の子どもなんと18万人!

一方、学校にいけない子どもが、全国で18万人、山形県で千人を超えています。まわりの大人

不登校児童生徒数の推移 (国公立私立小中合計)

年度	2016	2017	2018	2019
山形県 (%)	954 (1.11)	1,020 (1.21)	1,110 (1.35)	1,153 (1.43)
全国 (%)	134,398 (1.35)	144,031 (1.47)	164,528 (1.69)	181,272 (1.89)

たちに祝福されて、新しいランドセルを背負い、優しい先生、たくさんの友達といろんな勉強ができる、と期待を膨らませて入学する子どもたち。学年が進めば進むほど学校に行けなくなる今の学校。子どもたちの夢や希望を奪う学校でいいのでしょうか。

いじめ認知数も過去最多を更新しています。学校の状態は年々悪化を

2019年いじめ認知数
61万件 過去最多を更新
重大事態は2割増の723件
(文科省問題行動・不登校調査)

続けています。大人の責任で一刻も早く是正しなければなりません。

そのためには、教師の数を増やして、少人数学級を実現させることです。子どもたち一人ひとりの多様性を大切に、一人ひとりを尊重する教育を保障するための重要な一歩となります。それは過度な競争と管理という教育のあり方を見直すことにもつながっていきます。

コロナ感染拡大の中で広がる少人数学級を求める声

(少人数学級を求める全国からの声から)

- 【保護者の声】
・少子化にもかかわらず年々増える不登校児、その原因は一人当たりの教員が抱える生徒数が多すぎて、子どもに接する態度がぞんざいにならざるをえない。まずは教員の心にゆとりを作り、一人ひとりの子どもに細やかな配慮ができる環境を作るために少人数学級制度が必要である。(東京)
- 【教師の声】
・少人数だった分散登校の時は教室に入れたのに、一斉登校になるとまた教室に入れなくなった子どもたち。少人数なら教師ももっと一人ひとりとじっくり関わる時間の余裕も生まれます。(奈良)
- 【一般市民】
・受け持ち人数が少なくなることで、身体的にも、精神的にも余裕のある先生が、一緒に過ごし、しっかりと向き合ってくれる。そんな学校生活であれば、どうでしょうか? もっと笑顔で楽しく学校に通える子が増えるのではないのでしょうか?(鹿児島)

コロナ感染が広がる中、学校は長い休校を経て再開されました。様々な不安やストレスを抱えての再開となりました。学習の遅れを取り戻すため、勉強、勉強の毎日。楽しい行事がなくなり、遊びも制限され、楽しい給食も黙って食べる。子どもの成長に欠かせない友達との関わりが大きく制限されるようになりました。そんな中で一人ひとりの子どもたちの不安やストレスに応えることのできる手厚い教育、子ども間の十分な距離を確保できる少人数学級を求める声が大きく広がりました。

5月22日、日本教育学会が教員10万人増の提言。6月2日、日本共産党が教員10万人増・少人数学級の「緊急提言」。6月22日の「日経新聞」で全国連合小学校校長会会長が「ウイズコロナ時代には、20～30人学級」と語りました。

7月2日には、全国知事会会長、市長会会長、町村会会長連名で「少人数編成を可能とする教員の確保を」との緊急提言を出し、「少人数編成を可能とする教員の確保」を文科大臣へ要請することになります。この全国の首長を代表する三者が少人数学級を要請したことが大きな転機になり、少人数学級を求める声は一気に広がりました。

具体的な運動も展開され始めました。7月15日には、教育研究者有志12氏が少人数学級を求めるインターネット署名を開始し、2ヶ月後の9月17日には15万人超を集約し、文科省に提出しました。

コロナ感染拡大をめぐり、社会のあり方が問われはじめました。新自由主義的政策に基づく、効率優先の社会でいいのかという問いかけです。学校教育においても、コロナ感染拡大から子どもたちを守るためには、抜本的に教育予算を増やし、時間的にも空間的にも、ゆとりある教育を進めるために少人数学級を実現してほしいという声が大きく広がりました。

少人数学級をすすめる県民の会発足

前年度から取り組んでいる「せんせいふやそう」の運動を土台に、情勢に応える運動にしようと、世話人会を経て、10月18日、8人の世話人、



13団体の参加で「少人数学級をすすめる県民の会」が発足しました。少人数学級実現に向けての運動が力強くスタートを切りました。

少人数学級をすすめる県民の会

署名運動をもとに、対話を広げ、世論と運動を背景に少人数学級実現を求める意見書採択をできるだけ多くの議会（3月地方議会・6月県議会）で実現し、子ども父母、県民の声を政府に届ける。

世話人

高木 紘一（山形大学名誉教授） 伊沢 良治（高畠町議・元小学校校長） 佐藤 匡子（たんぼば会理事長） 今野 孝（全山退教会長） 外塚 功（弁護士） 井上 藍（PTA副会長） 遠藤 勢一（元中学校校長） 福岡 修三（全山教組委員長）

具体的活動

署名活動の推進

- ・より幅広い団体・個人参加の「市民の会」を各地区につくり、それを母体に署名運動を推進する。有権者1割の署名集約をめざす。
- ・賛同・協力願ひ多くの団体や個人に呼びかけ、「市民の会」や「地区の会」への参加、署名推進者を広げる。議員、小中学校校長、小中学校PTA会長には事務局よりお願い状を郵送する。

少人数学級をすすめる県民学習交流集会の成功

- ・教育のつどい実行委員会と共催で、運動の大きな飛躍台として開催する。

議会請願

- ・10月～2月に署名活動を広げに広げ、3月の35市町村議会と6月の県議会に対し、国への意見書採択の請願を行う。

少人数学級をすすめる県民学習交流集会

11月15日、ビッグウィングを会場に「県民学習交流集会」を開催しました。



コロナ禍の中にもかわらず、県内全域から100名を超える参加がありました。

集会では、署名の呼びかけ人の一人である本田由紀さん（東京大学教授）に、「コロナ危機の中で学ぶ子どもたちに少人数学級を」と題した講演をして頂きました。本田先生は、“1学級当たりの児童・生徒数が多く、子どもにきめ細かい対応ができず、垂直的序列化を生み出している” “子どもの意見が反映されず、特定のルールが子どもに強要され、教職員の過重な負担も深刻になっている”と指摘しました。20人学級の実現の必要性を力説するとともに「どんな人間も尊重される社会をつくろう」と呼びかけました。

リレートークでは、現職教員など4人から学校現場の実情が報告されるとともに、少人数学級実現への決意が交わされました。会場からの質問や意見を求める挙手も多く、少人数学級実現に向けて熱気に包まれた集会となりました。

運動の輪が大きく広がる

(署名3,203筆、賛同127団体・個人)

県民の会が結成され、運動がスタートして2ヶ月になります。12月21日現在、賛同・協力団体は、16団体。賛同者は、女優の渡辺えりさん、国会議員の芳賀道也さんをはじめ、103名まで広がっています。町長が1名、現職校長9名、議員42名、さらに社長、農協の元組合長、病院の副院長など地元で影響力のある多くの方々賛同者として名乗りをあげてくれています。署名数は、3,203筆を数えました。学童保育連絡協議会から320筆の署名が届けられ、小中学校7校から直接署名が届きました。これまで一緒に活動することのなかった南陽市職労からも431筆もの署名が届けられています。

今まで経験したことのない署名運動の広がりです。その背景には「学校はこのままでいいのか」「子ども一人ひとりを大切にしてほしい」という国民の切実な思いや願いの広がりがあります。そして、その願いを実現しようとする会員の真面目な行動があります。学校や議員宅、学童を訪問しての協力呼びかけ、近所を一軒一軒訪問し署名を集める会員、人の集まる喫茶店に署名用紙を頼み、知り合いの保護者に協力をお願いするといった活動...。働きかけただけ成果が広がっています。活動によって、協力・共同の輪がひろがり、信頼や新たなつながりが生まれ、自信を深めています。



小学校35人学級へ 一刻も早く30人学級を!

12月17日、文科相と財務相が小学校の学級編成を5年かけて35人に引き下げることを合意しました。学級規模の一律引き下げは40年ぶりです。運動が作りだした重要な前進です。

しかし、「小学校だけ、35人を5年かけて」というだけでは、国民の願いからあまりにもかけ離れた内容です。なぜ、体も大きく、思春期で手厚い教育が必要な中高生はそのままなのか。なぜ、最低限の身体的距離をとるのも難しい35人なのか。さんさんプランの山形では現場の状況は何の改善にもつながりません。文科省も30人学級を求めていました。欧米では20人程度の学級が当たり前です。ここで動きを止めてはなりません。今回の重要な前進を力に、不十分さを怒りにし、

夢と希望の学校へ、たくさんの声をつなげるときです。

2月末まで署名活動を広げに広げ、3月の35市町村議会と6月の県議会に対し、国への意見書採択の請願を行います。全自治体で採択を勝ちとります。県民運動への参加協力をこころから呼びかけます。

子ども一人一人を大切にする 感染症にも強い 少人数学級を求める署名にご協力ください

メッセージ

コロナは私たちに色々なことを教えてくれた。学校がないと、こんなにも大変だということ。学校は勉強もだいじだけれど、友だちと遊んだり、話したり、食べたり、全部がだいじだったこと。先生やみんなと、あでもないこうでもないと思えるのが面白かったこと。コロナで学校が休みだった時、子どもは一人で宿題をやるのはつまらなかった。親は、やらせるのがつらかった。先生たちともどまった。久しぶりの学校はうれしかった。分散登校でクラスの人数が半分になった時、先生は少しゆったりして、子どもは授業がいつもよりわかる気がした。

コロナの時代に、子どもを大切にする学校を子どもたちに。私たちは次のことを求めます。

1 安心・安全な少人数学級をすみやかに実施してください
分散登校中の少人数授業で、一人ひとりの顔がよく見えることや、授業がよくわかることを、先生も子どもも実感しました。早急に30人学級、その後すみやかに20人程度の学級への移行を実現してください。

2 授業を詰め込みすぎず、仲間との学びと豊かな学校生活を保障してください
楽しみ行事も大切に、子どもたちに仲間との共同の学びと豊かな学校生活を保障するよう、必要な措置を十分にとってください。

渡辺えりさん (脚本家・演出家・俳優) 少人数学級と豊かな学校づくりが大賛成です。コロナ禍の中、教育を志した若者が感染に神経をとり、心をすり減らすように感じています。若者たちが教育という、すばらしい仕事に誇りを待てるよう、国は教室にゆとりと、きつい仕事に見合った待遇を保障してほしい。子どもたちがストレスを回さないか、心配です。ゆとりのある学校で、友達と豊かに学び、誇い立派の人の痛みがわかる子になってほしい。子どもと教職員を大切にする学校は、この国の希望です。

芳賀道也さん (参議院議員) 少人数学級推進を応援します。いま学校の先生たちは多岐を極めていますが、病欠休職の先生が増加し、半分ばで教壇を去られる先生もいます。資格に追われ、本来の教育にあてる時間が少なくなっていることが大懸念。早急に「少人数学級」を実施し、先生方の負担を減らし、子どもにじっくりと関わる時間を最大限に保障することです。子ども一人ひとりを大切にしたい教育実現のために、先生方と連携し、力を尽くしていきます。

少人数学級をすすめる県民の会 山形市東町2-6-15新発見ビル2F 教育文化センター
TEL 023(608)3520 FAX 023(608)3207 akri@h2.dion.ne.jp



少人数学級がいい!

山川 貴子(山形)

学校での授業が再開して半年が過ぎ、「オレ、マスク嫌」と外してばかりいた1年生もすっかりマスクに慣れました。マスクはひとりひとりががんばる問題。でも、教室での“密”は少人数学級の実現でしか解消できない問題です。

N小学校では理科室などの机上に飛沫防止のパーテーションを置いていますが、ただでさえ机上是狭いので実験の時には取り払い(置く場所がない

ので、教室の隅の床に置いている)、ノートを書く時にはまた戻します。スクールサポートの方が毎日消毒してくださるのですが、「動かすので壊れやすいし、指紋がいたずらに付いている。子どもたちの気持ちの表れなのだろうが、消毒しててもちょっと空しくなってくる。」と聞きました。もちろん、もともと動かすべきものではないのです。

新学習指導要領の言う「主体的・対話的で深い学び」も、子どもたちがマスク越しの小さい声しか出さない(出せない?)のに、十分な効果を期待できるとは思えません。何を言っているのか、みんながよく聞き取れないのです。そもそもマスク越しにどれくらいの声量が必要かなんて、子どもにはわかりません。

では、30人の子どもをいかに安全に話し合わせるかを、先生方は研究しなければならないのでしょうか? 先生方がエネルギーを使うところはそこ???

少人数になれば自動的に解決できる問題が、ちょっと考えただけでもどんどん出てきます。その数だけ、多人数のために対策を考えなければならない問題があるということです。そしてその対策に先生方は追われています。

「コロナ禍の今、ぜったい少人数学級がいい!」

小学校の教科書が新しくなりました。算数の東京書籍版を見ると、キャラクターが随所に出てきて呟いては、読者を上手に誘導してくれます。もしかして「主体的・対話的で深い学び」とは、「読者と教科書との、主体的・対話的で深い学び」ということでしょうか?



学校の役割って何だろう ～ 学びの多様性から考える～

山形地区支部書記長 後藤 美子

4月から専従として山形地区支部書記局で仕事をしている。学校現場から離れ早いもので8か月だが、何とかやっている(と思う)。今年は新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、直接組合員の先生とお話する機会が減っており残念な思っている。そんなことばかりも言っていられない

ので、学校以外のつながりを発掘しようと学校以外の方に会いに行ったり、オンライン研修に参加したりしている。

先日、発達に特性をもつ子の親のおしゃべり会に参加させてもらえる機会があり参加してきた。3月までは特別支援学級の担任をしてきていたのだが、教育相談などで関わった方もおり、懐かしく思うのと同時に元気にやっているのか心配しながらお話をうかがった。

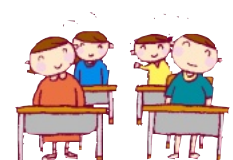
参加した保護者の方たちは、授業で子どもが苦しんでいること、家庭でも宿題ができずにどうしたらいいのかという苦悩を語り、参加した方みんなが涙する場面があり、学校の役割って何だろうと考えさせられた。

また、これまで当たり前と思ってやってきた漢字練習の自主学習も、発達に特性のある子どもたちにとっては、苦痛な修行(?)でしかない。むしろ罰と感じているかもしれない。しかし、やり方をちょっと変えれば一生懸命に取り組むこともできるのだ。問題を読み上げたり、タブレットを使ったり、文字を色分けしたりと工夫すれば、テストで9割正解することができると、自主学習ノートやテストを見せてくれた。

「できる」ようになるための方法はたくさんあるはずなのに、他の子もやりたいと言ってしまうから、タブレットを壊してしまうかもしれないから...と消極的な理由でなかなか実現することができないでいる。仕方ないから保護者が教科書会社からデジタル教科書を取り寄せたり、タブレットを買って使い方を勉強して子どもに使わせたりするなどの工夫をして子どもの困難をフォローしているのだ。

学校はいろいろな子どもがいる。いろいろな先生がいる。だから学びだっていろいろあっていいと思う。しかし、これができなきゃダメ、これをやりなさいと一方的に与えられることが年々多くなっていると感じる。

多様な学びを尊重する学校、そして子ども一人ひとりが大事にされる「20人以下の少人数学級」が実現されるよう、運動を進めていきたい。



県民教連 冬の学習会2021 OnLine 講演会

2021年1月9日(土)
講演：14:00～15:30
録音：15:40～16:40
(山形ビッグウィング401会議室にて)

演題 新型コロナ ポストコロナ時代の教育改革

「一人ひとりの学びの保障と公正な教育の実現へ」

Zoomのセミナーによる配信にもあります。ご自宅PCまたは山形ビッグウィングにて視聴ください。
IDおよびパスワードの取得については裏面参照ください。

県民教連ホームページ
<http://www.asahi-net.or.jp/~gy6e-kjm/>

県民教連Facebookを開設しました

講師：佐藤 学 さん 学習院大学教授 東京大学名誉教授

- 主催 山形県民間教育研究団体連絡協議会
- 共催 山形県教職員組合山形地区支部教文部
- 問合せ TEL 023-631-2112 FAX 023-631-2126

Mail 山形県民教連 代表 c_papas58.shoji@gmail.com
山形県山形地区文部 yamagata@yamagata-kenkyousei.or.jp

下記要領で「Zoom無料版のインストール及び接続テスト」を予め実施してください。

- Zoom無料版のインストールは下記を参考におこなってください。お困りの場合は山形地区支部へお問い合わせください。
(スマートフォンでも視聴できますが、タブレットやパソコンの方が画面が大きいのでお勧めします。)
● https://www.infact1.co.jp/staff_blog/webmarketing/tool-app-soft/45208/
● <https://zoom-shukyaku.com/zoom-無料-アカウント-在りワーク-使い方/>
- 事前に下記のアドレスに接続し、ご自身でZoom接続テスト(ビデオ・スピーカー)を行ってください。
● <http://zoom.us/test>
なお、テスト内容及び方法を確認したい場合は、下記のホームページをご参照ください。
● <https://it-counselor.net/zoom-test-pc>
- オーディオ機能は「オン」に「マイクはミュート(消音)」でZoomへの入室をお願いします。
□ 当日は安定したインターネット環境をご準備ください。
□ もし接続が切れた場合は、一度退出し、もう一度入り直してください。
□ Zoomは頻りに更新されています。最新のZoomに更新の上ご参加ください。
- ご自宅PC等での視聴が困難な場合、山形ビッグウィング401会議室での視聴をご案内ください。席数は限定になります。お早めに申し込みください。

佐藤 学 さん On-line講演の論題

- 新型コロナによる教育の変化と現実
- 日本社会の変貌と教育-危機の諸相
- 第4次産業革命(Society5.0)とICT教育
- ポストコロナ時代・第4次産業革命時代の教育
- 一人残らず学びの主権者に育てるために
- 一人ひとりの学習権を保障し公正な教育の実現を

※ZOOM視聴用 ID: 96258200608
パスワード: 665272

著作権及び肖像権保護のためIDとパスワードの拡散を禁じます。

申込プログラム FAX 023 631-2126	FAXまたはメールでお申込ください(メ切2021年1月4日) 講演会 オンライン参加(自宅PC等) □ サテライト会場で参加(山形ビッグウィング401会議室) (公民教連会員・口未加入者)
学校名または所属サークル名	※公民教連会員は参加費無料です。未加入者の方は運営協力費1000円を下記口座へお振込下さい。 ※会員のみなさんは2021年次会費1000円を同額の振込用紙にて納入にご協力下さい。
住所	
携帯番号	
E-mail	
お名前	
備考	東北労働会庫 普通 口座番号5787461 名義 山形県民教連 代表 鬼島 悦雄

講演概要(予定)

山形県民教連冬の学習会2021(県教組山形地区支部教文部教育実践講座)2021年1月9日

新型コロナ・ポストコロナ時代の教育改革

～一人ひとりの学びの保障と公正な教育の実現へ～

講師：佐藤 学 さん(学習院大学特任教授・東京大学名誉教授)

1. 新型コロナによる教育の変化と現実

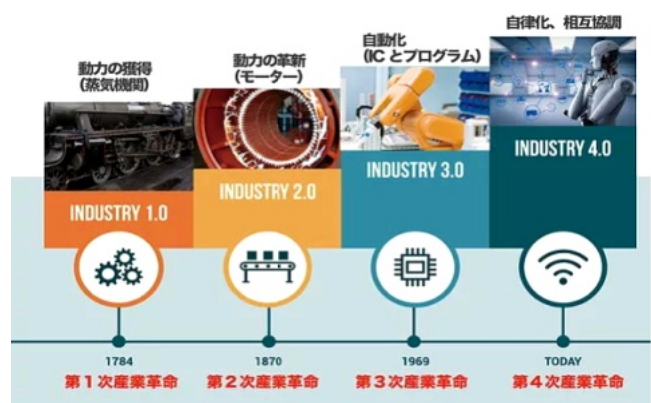
- ・子どもと新型コロナウイルス

2. 日本社会の変貌と教育-危機の諸相

- ・日本社会の変貌
- ・大学・大学院の機能低下
- ・日本の学校と地方教育委員会の自律性は国際的に見て低いレベル
- ・教員採用試験倍率の低下と教師の過剰労働
- ・学校の変化(特別支援, 不登校, 校内暴力)

3. 第4次産業革命(Society5.0)とICT教育

- ・新型コロナのもとでICT教育は加速し、過熱化している
- ・第4次産業革命による労働市場の未来予測 公教育の企業化が急激に進行



- ・巨大化する教育市場・債務国家の公教育

公教育のIT企業や教育産業への委託（民営化）が急激に進行している事実

- ・グローバルな教育の企業化・ビッグビジネス化

アメリカの情報・出版産業グループ「ピアソン」は教育のソフトとハードをビジネス化する世界最大規模の教育産業。

アメリカ・イギリスだけでなく、ブラジル・コロンビア・南アフリカ・エチオピア・中東諸国と国家契約で事業を展開。

インドは23,000校もの学校がピアソンの商売の対象となっている。2015年度にはOECDのPISA調査も受託した。

- ・民営化（企業化）されやすい学校は、
貧困地域・途上国の学校、低学力の学校、一斉授業の学校の3種類

4. ポストコロナ時代・第4次産業革命時代の教育

- ・新自由主義によって停滞しつつ延命してきた資本主義。日本はその象徴的な事例であり、経済大国から没落してしまった（2019年の経済成長率は世界170位）

- ・新しい社会はシェアリング、ラーニング&ケアリングコミュニティをめざし、「学びの共同体の改革」はそれらを準備していく実践

5. 一人ひとりの学習権を保障し公正な教育の実現を

- ・新しい社会はシェアリング、ラーニング&ケアリングのコミュニティをめざしたい。「学びの共同体」はそれを準備している。

- ・第4次産業革命時代の鍵概念となるのは、創造性（creativity）・探究（inquiry）・協同(collaboration)の3つ。

- ・2003年の段階では学習スタイルにおいて日本と韓国は「探究」でも「協同」でも世界一低い値に。それが2015年には協同的な問題解決において国際的にトップレベルまで向上。1990年代後半から取り組まれてきた「学びの共同体の改革」の成果と言える。

- ・「子ども=人材」なのか？「教育=人材養成」なのか？「人的資本（human capital）論」そのものを問い直す必要がある。子どもは「人材」ではない。

「人的資本論」ゲーリーベッカー著：シカゴ学派（新自由主義派）・ノーベル経済学賞受賞者

人間に属する資格や学歴や技術を道具や不動産と同じ「資本」として測定することにより、人間の価値を評価しようとする理論。人間がもつ能力（知識や技能）を資本資源として捉えた。「子どもの商品化」に拍車をかけた。



学習指導要領

コロナに薄められても徐々に姿を現し始めている問題点

早坂 久佳 (山形)

2020年 月、新しい学習指導要領のもとでの授業が始まるはずだったが、コロナ禍の中それどころではなかった。安倍一次内閣で政治主導で改悪した教育基本法を完全網羅した指導要領だから、様々な問題が一気に出るはずだったが、コロナに薄められ徐々に姿を現し始めて来ている。

道徳や英語は教科に向け先行されているので問題は明らかになっている。道徳は個人の生き方・価値観に深くかかわっていて、それが評価対象になるということが問題なのである。どんな評価方法であればよいのか、ということが問題なのではなく、『人間の内心は自由な領域としてあるのではなく、評価の対象なのだ』ということが道徳の教科化によって確実に子どもたちに伝わるだろう。人の内心のあり方を公権力が、善し悪しを決めて評価選別する。今の自民党菅政権で起きている学術会議の任命問題と同質な変更・偏向である。

英語の小学校教科化は、財界からの何十年もの悲願であり、国際理解・外国語活動などどこかに行ってしまう、教科書はない・筆記はしない約束は反故。5、6年生は2年間で単語数が700語で評価されることになり、週2時間確保で1週間あたりの授業数が1コマ分増やされ各学校が時数工夫で乗り切っている。しかし、指導者養成や確保で十分でないのに、困った時数を押しつけられうまくいくはずはない。これから、ついていけない子の英語嫌いが問題化してくることは容易に想像できる。

さらには、なんとと言っても横文字による目新しさを醸し出しているところだ。アクティブラーニングは教材を無視したものにフィーバーしてしまい、『主体的・対話的な深い学び』と名を変え修正してきた。しかし、学校スタンダードやユニバーサルデザイン、ICTなど指導法として、学校研究に入れないと遅れてしまうような手法で入り込んで来ている。

でも、昔から民間教育で追求してきた『どの子どもわかる授業』ということであり、何も新しいものではないはず。山形のある中学では、色の認識

ができない子がいるから学年の掲示物を白黒にするようにと「授業のユニバーサルデザイン」を読み違えた支援を画一的に求めたようだ。横文字は共有するまで迷走する。指導法が先にあると全てそれに合わせようとして趣旨をはき違えてしまう。子どもや教材に合った指導法が多様にあるべきと考え、画一的に被せてはならないのだと思う。

最後に右のチラシを見て下さい。かかりつけの歯医者さんに行ったとき、3つのクイズに答えて応募して欲しいと渡された配付物です。コロナ禍でも病床数を減らす計画を見直そうとしないというのです。

裏面は12月10日に自民と公明の茶番劇で決ってしまった75歳以上の窓口負担が2割になるというもので、患者さん達に『コロナ禍の中、くらしへの支援こそ大事ではないのか』と訴えるものでした。

前文のように教職員でないとわからないような事が問題として、知らず知らず子ども達にしわ寄せがいくこととなります。お医者さん達も頑張っているように、私達も上が決めたことだからと諦めることなく、父母に知らせ理解してもらいながら、よりよい教育に変えていかなければなりません。まずは、少人数学級を実現させたいものです。



今回の学術会議会員候補の任命拒否問題について、県民教連事務局で検討し、日本政府に対して以下の抗議文（要請文）を山形県民教連会長名で送付しました。

2020年12月7日

内閣総理大臣
菅 義 偉 様

山形県民間教育研究団体連絡協議会
会長 設 楽 隆 雄



子どもたちに、「民主主義」をつたえるために

日本学術会議会員候補6人の任命拒否を撤回し、すみやかに105人全員の任命を行うことを求めます

10月1日、あなたは日本学術会議から推薦された105人の候補のうち6人の任命を拒否しました。国会や報道番組で、その理由や経緯を問われても、あなたをはじめ政府関係者は答弁を二転三転させたり、学術会議の組織や運営の在り方を見直すなどという論点のすり替えを行おうとしたりしています。

この言動は、国民の納得にはほど遠く、政治不信が急速に高まっています。この問題は違法というだけでなく、この状態のまま続いていけば日本の民主主義が崩壊し、重大な事態へと陥られる可能性が極めて高く、このまま看過しておくわけにいきません。

・教職員は、憲法の本質を達成するために「教育基本法」（平成18年にあなた方が変えた）に明記されている教育の目的などを常に念頭におき教育に携わっています。

教育の目的

1. 第一条 教育は、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行われなければならない。

.....

教職員は「民主主義」を子どもたちにしっかり教えなければならないのです。

そのためには、最高議決機関である国会の役割が大事です。

あなたは、その国会で決まったことをないがしろにして言い繕っています。

このままでは、子どもたちは「民主主義」を学ぶことができません。

国会は、国民の生活や声に真摯に向き合い、必要な法律をつくったり、また、主権者である国民の疑問に回答したりする場です。

子どもたちは、権力をもつものが勝手に法律を解釈変更できるのが民主主義だと思っています。

国会の議論や政治活動の場で、子どもたちに民主主義を実践して見せてください。

法律を守ってください。国会が最高の議決機関です。そして、主権者である国民が納得できる答弁をしてください。

日本語を汚さないでください。言葉に責任を持ってください。

・教育基本法第2条には「学問の自由の尊重」や「道徳心を培う」ことが明記されています。そして、『学習指導要領道徳科』には指導の観点として

小学校1～4年生の「正直・誠実」の項目には
(1・2年生)うそをついたりごまかしをしたりしないで、素直に伸び伸びと生活すること。
(3・4年生)過ちは素直に改め、正直に明るいい心で生活すること。

と記載されています。

それで、教職員は、「嘘をついてはいけない。」「過ちは認め、改める。」ことが、人として社会の中で生きていく基本的なルールだ、と指導しています。

しかし、日本学術会議会員候補の任命拒否の国会での報道や、あなたや政府関係者の言動を聞いていると、ころころと答弁が変わり、ごまかしたりすり替えたりしているのが明らかです。このようなことを国会で行っているのは、子どもたちに道徳心は培うことはできません。また、道徳的にも社会的にも許されません。

子どもたちに「正直に、誠実に生きる力」をつけさせるために間違いを認め、真実を明らかにしてください。

・6年生になると、学校では「政治の仕組み」や「日本国憲法」の学習を行います。

そして、子どもたちは、はじめに「国民主権」「基本的人権」「戦争の放棄」を学び、日本国憲法のすばらしさを感じ、自分の存在の大きさに気づかされ、誇りに思います。

また、「日本は戦争をしない国なのだ」と知り、安心します。

同時に「日本国憲法には『学問の自由』『表現の自由』『思想、良心の自由』などがあるので、私たち国民は、安心して自分の考えを表現することができます。」ということを理解します。

教育現場では教育活動の中で、教育基本法にのっとり、民主主義を指導しています。

子どもたちは「自分の考えを表現する。」「少数意見を尊重する。」「多数決ではなく合意で決めた方がよい。」「みんな平等で対等だ。」などということを経験を通して学び身につけていきます。

また、主権は国民にあり、政治家は、いろいろな意見に耳を傾けて、自分の考えを再考し、国民に問い、国民の幸せのために働くのが責務である、ということも理解します。

過去に、自分の考えが言えなくなった日本は、世界中に多大な犠牲を払った戦争に突き進みました。

『学問の自由』『表現の自由』『思想、良心の自由』は民主主義の根幹です。侵してはならないのです。

日本国民の最高の法規、日本国憲法を守りなさい。首相としてのあなたにはその義務があります。

子どもたちが「民主的人格」をもった国民として育っていくために、大人がとりわけ政治家が「民主主義」をしっかり守らなければなりません。

そのためにも、今回の任命排除を撤回し、速やかに105人全員の任命を行うことを求めます。

本の紹介

全国到達度研究会会誌

『今日から始める楽しい授業づくり』

第9号(2020年)

特集「子どもたち児童・生徒と学生を

ひきつける手づくりの教材群」

全国到達度評価研究会は、到達度評価を生かした授業づくりを進める研究会です。今回ご紹介するのは、当会の研究会誌です。毎年1回の発行ですが、まもなく10号を迎えます。今回は表題の教材教具の特集です。会員は小学校教員を中心に、中高そして大学と幅広いので会誌の内容は、現場の実践から理論まで幅広くなっています。内容を幾つか紹介します。

- ダンゴムシは赤ちゃんを産む。
- ダンゴムシは足がある。(成虫は14本、幼虫は12本)
- ダンゴムシの足の先端には爪がある。
- ダンゴムシには触覚がある。

以上のことに気づくことで観察カードの記録にあたっては、見たことを見たままに、絵を描くように文章に綴る。絵は鉛筆で描き、詳細に描くために色はあえて着けないことが大切で、必ずタイトルも書きます。

1. 小学校生活科から、「子どもと楽しく観察しようダンゴムシ」が掲載されています。ダンゴムシは簡単に見つけられ飼育も難しいものではなく、生物の誕生から死までが容易に観察できる優れた教材です。学習のねらい(到達目標)としては、

- ダンゴムシは餌を食べ、糞をする。
- ダンゴムシは脱皮をする。

観察カードの記録にあたっては、見たことを見たままに、絵を描くように文章に綴る。絵は鉛筆で描き、詳細に描くために色はあえて着けないことが大切で、必ずタイトルも書きます。書いたら発表の時間を取り、発見したことを共有します。担任は「学習のねらい」を踏まえて必ずコメントを入れます。ここが児童を励まし、次への意欲を高める大切なところです。一例を挙げると、

- 児童「ダンゴムシの赤ちゃんがふつきんを27回していました。わたしは、赤ちゃんなのにすごいなと思いました。」
- 担任「ダンゴムシのふつきんのうんどうのようなうごきを、よくかんさつできましたね。」

このように子どもの観察結果にコメントしていきます。

2. 中学校社会科の実践から、「教材を身近に感じる」授業の余談」

どちらが進歩したものでしょう？縄文式土器と弥生式土器を生徒に見せてこの質問を。デザイン性が先か意見は見事に分かれるが、ポイントは水を入れて運ぶ時、容器が重たければそれだけ負担になる。そこで実際に教師が焼き物のコーヒークップを作った時の話をする。

「焼き物のコーヒークップを作った時のこと、いざコーヒークップを飲もうとしたら、カップの口の部分が厚すぎて、唇を窄ませることができずに口の左右からコーヒークップが垂れてしまった」。この話から薄くても硬い土器を作るためには、高温で焼かなければならない。弥生時代には登り窯が伝えられ、須恵器という

硬い土器を作ることができるようになった。これで進歩したのは、より薄手で強い弥生式土器であることがわかります。

このほか、高校からは「高校生がアジア太平洋戦争を考えたための教材」、大学からは「教えることと教材づくりー教育の『学習化』をくつがえすー」など、全部で12の実践と2つの論考が掲載されています。興味を持たれた方は是非ご一読ください。

お求めは、
su-san101@nyc.odn.ne.jp
鈴木隆までご連絡ください。
誌代300円クリックポスト
198円計498円でお送りします。ご注文の際に全国到達度評価研究会の振込先をお知らせします。

(鈴木 隆)

